

PAM通信 コラム

2008年7月発行

<第16回>介助をしながら

PAMの介助者には様々な人がいます。介助を始めたきっかけや働き方、私生活も様々です。今回のコラムでは、一人の介助者の書いた文章を紹介してから話を進めたいと思います。まずは以下の文章を読んでみて下さい。

PAMの介助に入っているコンドウです。僕は27歳で介助の仕事をしたので早9年、今年キムタクと同じ年の36歳になりました。普段の僕の生活は、24時間の介助を週2日入り、後は趣味でバンド活動をしています。32歳まではギタリストととして、32歳からはギターボーカルとして活動しています。その心境の変化は、今までのバンドは大体全てにおいて僕が運営してましたが、やはりフロントマンはボーカリストだと思います。なのでギタリストが主導権を握っているのはどうもまくいかな。それならば、自分で歌ってしまえと。そして僕のバンド“BREAKFAST OF CHAMPIONS”で4年間活動を続けてきました。今年1月にレコードレーベルに所属して、今年7/16(水)に日本全国でアルバムを発売する事になりました。聴く人によってはNIRVANAのパクリにしか聴こえないかもしれませんが、それでもいいんです。僕は只好きなことを好きなだけやりたかっただけなのです。もちろん英語詞です。だって英語圏のロックミュージックが好きなんだもんね。男子がバンドをやるっていうことの初期衝動は少し不純だと思います。楽しんでお金儲けて、女の子にモテてみたい。それ自体を悪いとは全然思いませんが、99%幻想です。実際、僕ぐらいの年齢でもそれを追いかけている人はいますが、少々さみしく思います。では、何故に僕は曲を作り、作詞してライブをやっているか？それは、今、僕がやらなくてはいけないからという「無根拠な使命感」からです。今の軟弱化したロックシーンを活性化させるのは自分しかいないなどという大それた事ではありません。僕はそういう少数派気取りなんかじゃないですよ。出来れば僕みたいな人がたくさんいれば楽しいなと思ってるんです。個性的とか独創的とかそんなもん呪いのようなもんです。だいいち少数派気取りの人達は自分みたいな人がたくさんいると困っちゃうですよ。多分。ライブに来てくれる人の8割が日本在住のアメリカ人、イギリス人、カナダ人、タイ人、中国人です。オーストラリア、カナダから足を運んでくれる人もいます。いつもライブに来てくれるイギリス人のイアン(35歳)は、イギリスのレディングフェスティバルでNIRVANAのカート・コバーンがドラムに突っ込んだライブを観たのが自慢。その彼がいつも僕のライブに足を運んでくれるのはとてもうれしいことです。興味がある方は是非試聴してみてください。もし気に入ったら買ってみてください。よろしくお願いします。コンドウ ヒデアキ

■BREAKFAST OF CHAMPIONS

“we usually just bow, play, bow, leave.” ~厭世感に轟音という名の静寂と、穏やかな笑みを~

10曲入り 2.310円(税込み価格) : TTR-012 全国タワーレコード、DISC UNION等で購入出来ます

如何でしたか？意味不明の部分が多い文章かもしれませんが、自分を表現したい情熱は伝わって来た

のではないのでしょうか？彼には目標があり（又はあった？）介助の専門家を目指してこの仕事を始めた訳ではありません。しかし、現在の収入のほとんどを介助で得ています。PAM には彼と似たような経歴の人や、転職の末に介助の仕事をしている人も少なくありません。これは在宅障害者の介助という仕事は働き方の自由度が大きく経験が必ずしも必要ではないので、様々な人が働けるといい点だと思います。しかし、別の見方をすれば不資格の条件が小さいので、いい加減な働き方も許されてしまうことになります。とは言え、お金を貰っている以上 PAM の介助者はプロフェッショナルです。介助者の皆さんには介助職の利点と問題点を意識して責任とプライドを持った仕事をして欲しいと思います。そして、豊かな私生活を送って欲しいと思います。

パーソナルアシスタント町田 194-0013 町田市原町田 2-7-19-106 Mail : pam@w7.dion.ne.jp 緊急時:090-1406-9367